第 4 回夢洲万博関連事業等推進連絡会議
及び第 5 回同幹事会（議事要旨）

令和 6 年 2 月 21 日開催

議事

- (1) 「第 3 回連絡会議及び第 4 回幹事会」の議事要旨の確認
上記について確認をした。
- (2) 大阪・関西万博事業の取り組みについて
上記について確認をした。
- (3) 万博工事期間中の交通影響検討
上記について確認をした。
- (4) 万博会場周辺の交通課題と対応案
上記について確認をした。
- (5) 万博開催期間中の交通影響検討
上記について確認をした。
- (6) 夢洲における物流交通対策
上記について確認をした。
- (7) I R 事業の取り組みについて
上記について確認をした。
- (8) 令和 6 年度の連絡会議について
上記について確認をした。

主な意見

万博の開催が近づくと工事車両だけでなく様々な物販の搬入やスタッフの輸送などが想定される。

近いタイミングでないと見えてこないと考えるが、そういった車両に関する分析もよろしく願います。

今後、パビリオンの建築工事や IR 工事も本格化していくが、想定以上の課題が生じた時には、現場レベルでしっかり情報・課題を共有していきながら対応していただきたいと考えており、我々もしっかり努力していくのでよろしく願います。

前回の会議の中で、咲洲トンネル西交差点がボトルネックになるとの説明があったが、その後直ちに交付金の手当てをし大阪市の改良事業の支援をさせていただいた。

こういったように情報提供をいただくことで、機敏な対応が取れることがある。

今後とも緊密な情報の共有が大変重要なことであるので、不測の事態も含めしっかり関係者間で連携していきたいと考えている。

夢洲北高架橋は前倒しで9月末に完成する予定であるが、工事車両のピーク（令和6年10月）前の8月からピーク同様の車両台数となっていることから、8月9月をいかに乗り切るかが、課題となる。

開催期間中の朝8時台からの交通については、容量を超える見通しとなっており、更なる追加対策が必要である。

準備をしても、実際には、予想もしなかったような不測の事態が必ず発生するものと理解しておく必要がある。

引き続き関係の省庁、大阪府・市、博覧会協会とよく情報共有をさせていただき取り組みを進めていければと考えている。

今後も課題が出てくるであろうが、大阪府・市、博覧会協会、関係省庁が一致して当たれるよう、引き続きよろしく願います。

精緻に詰めていても、大きな事故があると1日通行が止まることもある。

こうしたことを避けるためには、事前に交通安全について運転手の方が心がけてもらえるような環境を作っていくことが重要である。

狭い万博会場の中で複数の業者が工事を始める。

問題が生じた折には、統括ゼネコンとともに、博覧会協会や法的な権限を持ったセクターと一緒にしっかりやるということを今から準備しておく必要がある。

万博開催期間中に、予測しなかったような混雑が起きた時の対応案を、起きる前に大阪府・市とともに全体最適を考えて検討する必要があるものと考えている。

工事の円滑な推進のためには、施工環境の改善が一層重要になってくる。

そのためのバックヤードの確保や工事車両の出入り口の増設などが可能となった。

博覧会協会として、マスタープログラムを示し、またブラッシュアップしながら、しっかり関与して進めていきたいと考えているので、よろしく願います。

開催期間中に阪神高速道路の本線まで渋滞が生じることとなると、社会経済活動への影響が大きいことから、「追加的な対応(案)」で説明をいただいたように、今後も関係者間で協議調整が必要だと考えている。

リングの中で工事が集中して行われることになるので、問題が起きることを想定して対応していただくとともに、現場の状況を把握して、問題が発生する懸念が生じた場合には、先手で対応するよう取り組んでいただきたい。

開催期間中については、朝の時間帯を中心に若干容量を超える事態が予想され

るとのことであるが、一旦渋滞が発生すると、後続車両に渋滞が伝播していくので、その渋滞の解消には時間を要する可能性がある。

「追加的な対応（案）」の具体的な手法、効果を詰めていただき、次回の連絡会議で報告いただき、議論いただければと考える。